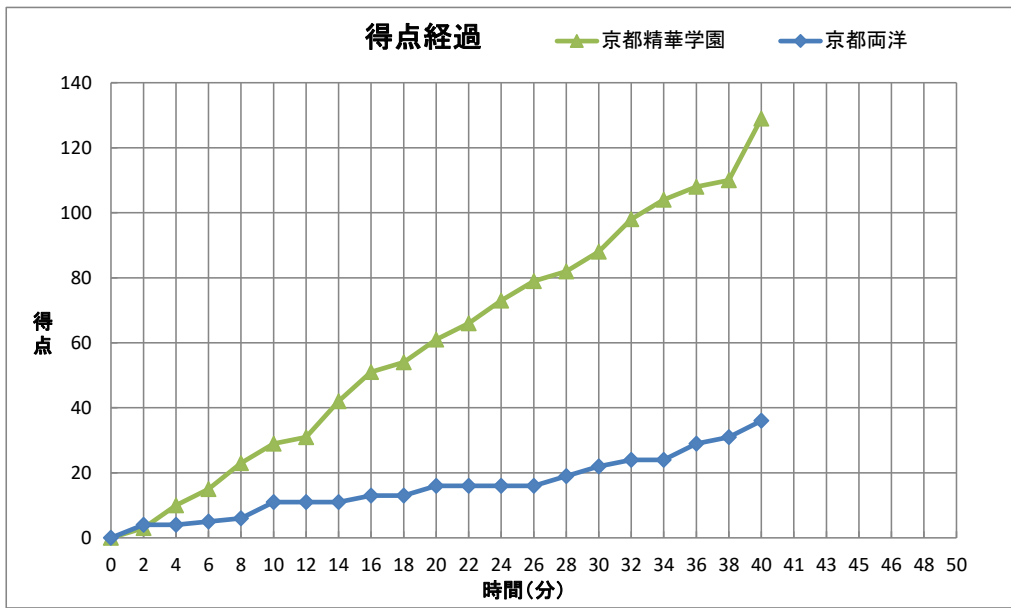




第42回京都府高等学校選手権大会 兼  
第75回全国高等学校バスケットボール選手権大会京都府予選

個人トータル表

女子		10月30日		13:20 開始														
決勝リーグ		島津アリーナ京都		M														
◎ 京都精華学園 129		<table border="1"> <tr><td>29</td><td>1st</td><td>11</td></tr> <tr><td>32</td><td>2nd</td><td>5</td></tr> <tr><td>27</td><td>3rd</td><td>6</td></tr> <tr><td>41</td><td>4th</td><td>14</td></tr> </table>		29	1st	11	32	2nd	5	27	3rd	6	41	4th	14	36		京都両洋
29	1st	11																
32	2nd	5																
27	3rd	6																
41	4th	14																
番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則					
* 4	イゾジェ ウチエ	27	0	10	7	2	1	ユヌス カオサラ ボルワチフェ	0	0	0	0	2					
* 5	柴田 柑菜	29	6	3	5	2	2	杉山 心月	2	0	1	0	4					
6	東 紗希	0	0	0	0	0	* 7	木谷 夢菜	4	0	1	2	2					
7	大森 心寧	0	0	0	0	2	8	谷口 心綾	2	0	0	2	1					
8	大田 紅葉	0	0	0	0	0	10	日渡 理緒	2	0	1	0	1					
9	山西 凜愛	0	0	0	0	0	18	中野 有佳子	3	1	0	0	1					
10	金丸 千蓮	6	2	0	0	1	16	井上 明梨	6	1	1	1	0					
11	日下部 小桃	0	0	0	0	0	25	牧野 心美	0	0	0	0	1					
* 12	八木 悠香	25	0	9	7	2	31	城地 あさひ	0	0	0	0	0					
* 13	堀内 桜花	12	0	4	4	1	32	清水 泉里	0	0	0	0	2					
14	川地 汐夏	-	-	-	-	-	* 42	木村 雫	5	0	1	3	2					
15	ダイヤモンド ジェシカ	13	0	6	1	2	* 49	西川 優月	4	0	2	0	4					
16	林 咲良	2	0	1	0	0	57	川田 友紀乃	5	1	1	0	0					
* 17	橋本 芽依	3	1	0	0	1	* 68	木村 香穂	0	0	0	0	5					
18	桃井 優	12	4	0	0	1	* 77	林 英美	3	0	1	1	3					
コーチ	山本 綱義					0	コーチ	吉田 聡					0					
Aコーチ	中川 瀬名						Aコーチ	甲良 泰明										
合計		129	13	33	24	14	合計		36	3	9	9	28					
主審:		川路 宗勲																
副審:		小柿 茉智子																
副審:		徳本 将思																



CTO	1・2P	3・4P	OT1	OT2	OT3	OT4
TeamA	:	:	:	:	:	:
TeamB	11:27	12:46	:	:	:	:

〔戦評〕  
ウインターカップ京都府予選 決勝リーグ最終戦 京都精華と両洋の対戦

第1Q 京都精華はハーフコートマンツーマン、両洋は2-3ゾーンでスタート。先制点を取ったのは両洋 #77、京都精華も#4から#13が合わせてすぐさま返す。両洋は京都精華の激しいディフェンスになかなか得点を決めることができない。京都精華は#13のゲーム展開から#12のゴール下シュートや#17、#18の3Pなどでじわじわと点差をあける。両洋はフリースローで何とか得点を獲得するものの、京都精華は#5の連続3Pや#4のゴール下シュートで点差を一気に広げ、29-11で京都精華リード第1Q終了。

第2Q 開始早々京都精華は、#4、#12のゴール下シュートやフリースローで加点していく。一方、両洋は2-2-1ゾーンプレスで流れを変えたいが上手くいかず、たまたまタイムアウトを請求。その後も得点ができない時間が続き、#42がようやくシュート決め第2Q最初の得点を獲得する。しかし、その隙を見逃さないのが京都精華、大黒柱の#4を中心に、#12のゴール下シュートや#5、#18の3Pなどで点差を一気に広げる。両洋は#16のドライブやフリースローで何とか得点し61-16で京都精華がリードで前半終了。

第3Q 京都精華は点差が開いても攻撃の手を緩めない。#15、#12の合わせからのゴール下シュートや#5、#18の連続3Pで加点していく。対する両洋は京都精華の激しいディフェンスに苦戦し7分間無得点に終わり、第3Q得点できたのは、#16、#18の3Pだけの苦しい展開になる。京都精華は点差があいでも集中力を切らすことなく、88-22で京都精華がリードで第3Q終了。

第4Q 京都精華はセットオフenseが機能し、#4の力強いゴール下シュートや#103P、ブレイクなど攻撃が多彩である。両洋は#57の3Pで攻撃のリズムを作りたいが、高さのある京都精華のディフェンスに対してシュートがなかなか決まらない。残り5分、京都精華は控えメンバーが出場するが、ディフェンスも厳しく速い展開のバスケットで簡単に得点する。両洋は#2の3Pなどで応戦するが万事休す。129-36で京都精華が勝利した。